

# 平成17年度 事業報告書

平成16年 6月 1日から平成17年 5月31日まで

## 特定非営利活動法人全日本聴覚障害スキー指導員会

### 1 事業の成果

今年度は全日本聴覚障害スキー技術選手権大会の開催事業をはじめとする既存事業に引き続き注力しました。スキー指導に関する事業では正月に青森県鯉ヶ沢スキー場で正月レベルアップ合宿、2月に兵庫県奥神鍋高原スキー場でスキースクールを実施しました。この結果、正月レベルアップ合宿に29名の参加者、2月のスキースクールに西日本在住の聴覚障害児・者25名の参加者を集めることができました。また、全日本聴覚障害スキー技術選手権大会の開催事業では2月に黒姫高原スノーパークで「第8回全日本聴覚障害スキー技術選手権大会」を開催しました。既存事業の中でも全日本聴覚障害スキー技術選手権大会開催事業は当会のビックイベントであるため、当会をあげて数多くの企業より多数の協賛品を集め、全国に向けて大胆なPR活動を行う等して知名度の拡大を図りました。この結果、出場者も昨年に続き40名以上集めることができました。8回目を迎えた全日本聴覚障害スキー技術選手権大会の存在が聴覚障害者スキーヤーの中に定着しつつあることの喜びを感じるとともに、来年度以降も引き続き開催していくことの責任を改めて感じさせられました。また、今年度から聴覚障害児・者のスキー情報保障に関する事業、スキー用語の手話に関する研究事業を新規に実施しました。聴覚障害児・者のスキー情報保障に関する事業では、都内のスキー関連出版社に対して刊行DVDに字幕を付けていただくよう要望を出しました。残念ながら費用面、技術面で折り合いがつかず今年度は交渉を中断しましたが、字幕の必要性を訴えることができました。来年度も事業として引き続き出版社と交渉していく予定です。聴覚障害者へのスキー啓発・広報では昨年に引き続き当会のホームページの公開、5月28日に機関紙を発行するなどNPO法人団体としての活動内容を不特定多数の方に向けて情報発信を行いました。最後に、スキー用語の手話に関する研究事業では、都内で当会に所属している会員が参加している指導員研修会、指導者養成講習会等の手話通訳活動を通して手話を統一しておきたいスキー用語を拾い集めました。

### 2 事業の実施に関する事項

#### (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
聴覚障害児・者向けのスキー指導に関する事業	全国の聴覚障害者を対象にスキーの普及及び技術水準の向上を目的としたスキースクールを開催した。	12月30日～1月2日	青森県鯉ヶ沢スキー場・百沢スキー場	5名	全国の聴覚障害者の29名	2.5
同上	同上	1月29日～1月30日	兵庫県 奥神鍋スキー場	6名	西日本在住の聴覚障害児・者の25名	275.5
全日本聴覚障害スキー技術選手権大会の開催事業	全国の聴覚障害児・者を対象に心身の健全な発展を目的とした全日本聴覚障害スキー技術選手権大会を開催した。	2月5日～6日	長野県黒姫高原スノーパーク	9名	全国の聴覚障害者の43名	167
聴覚障害児・者向けのスキー指導に関する事業	全国の聴覚障害者を対象にスキーの普及及び技術水準の向上を目的としたスキースクールを開催した。	2月19日～20日	群馬県尾瀬戸倉スキー場	4名	全国の聴覚障害者の9名	0
聴覚障害児・者のスキー情報保障に関する事業	出版社や外部団体に対して字幕付き視覚メディア製作の要望を行った。	9月6日	都内	3名	一般市民不特定多数	0
聴覚障害者へのスキー啓発・広報	総会やホームページを通じて、活動内容を不特定多数の方へ紹介した。また情報交換の場として、機関誌などを発行した。	6月26日 5月28日	長野県事務所	30名 9名	一般市民不特定多数	330
スキー用語の手話に関する研究事業	スキー用語の手話に関する研究	5月20日 5月28日	都内	25名	聴覚障害児・者の不特定多数	0